



創立：1980年(昭和55年)1月10日
 会長：岩田 修司
 幹事：堀 慎治
 クラブ広報委員長：湯澤 勇生
 例会日：毎週木曜日PM12:30～
 会場：ビルドン名古屋

事務局：460-0008
 名古屋市中区栄1丁目3-3
 ビルドン名古屋910号
 TEL：052-211-3803
 FAX：052-211-2623
 MAIL：2760@nagoya@mizuho-rc.jp
 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2014～2015年度
 国際ロータリーのテーマ
 Light up Rotary
 ロータリーに輝きを

2014～2015年度
 国際ロータリー第2760地区
 ガバナーのテーマ
 集まるう・語るう・楽しもう

2014～2014年度
 名古屋瑞穂ロータリー会長のテーマ
 感謝の気持ちを持って、
 ロータリーライフを楽しもう

第1687回例会

～ロータリー識字率向上月間～
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2015年3月5日(木) 晴れ 第34回

司会：鈴木健司会場委員
 ゲスト：愛知山車まつり保存協議会 事務局長 溝口正成さん
 中部ケーブルネットワーク株式会社 酒井麻利子さん
 北岡寿人さん
 斉唱：「君が代」「奉仕の理想」

会長挨拶

岩田修司会長

今日は、団塊の世代についてお話をしたいと思います。私も団塊世代のど真ん中の人間でございます。

そもそも、団塊の世代とは1947年4月～1949年3月までの3年間に生まれた人々の事でございます。私も含め、私どものロータリークラブには12名様の人達がお見えになります。私自身もそうでしたが、今振り返ってみますと、中学1年生の時、1クラス約50名で23クラスという、1学年だけで1200名という今では考えられないような人数でございました。高校1年生の時も1クラス55名程度で12クラス650名という学生の人数でございました。



現在はほとんどの方が大学に進学し、勉強が好き嫌いは別としても、大学院に進学する人が多くなってきております。その当時の大学進学率は、15%～20%程度で大変低く、大半は高校卒業後、集団就職等仕事に就き、金のタマゴと呼ばれ、戦後日本における大きな労働力になった訳でございます。当時は振り返ってみますと、暖房は石炭のストーブで、給食はアルミの食器に脱脂粉乳、パンと焼きそばで、パンに焼きそばをはさんで食べるというような食事でございます。

また、それだけの人数がいた訳でございますので、好むと好まざるに関わらず、学校を主な舞台として大変な競争があった訳でございます。

経済的に貧しい時代でございますので、裕福な家庭以外は地元の国立大学を望む傾向が強く、国公立大学の競争率が非常に高かったという事でございます。また、女性は学力が高くても、経済的に余裕があっても、女性に学問はいらぬというような時代でもございました。その団塊の世代と呼ばれる人は、806万人いた訳でございますが、現在その内168万人の方が亡くなっており、638万人が、現在元気かどうかは別にしてお見えになるという事でございます。

現在、日本社会において、いい意味でも悪い意味でもこの時代の人達が定年退職され、年金の問題がクローズアップされたり、企業においては、優秀な技術者が一斉にいなくなったりという様な事で、社会問題になっております。

現在65～67歳の方でございますが、私自身も含め団塊の世代の方々は

まだまだ元気でございます。これからまだまだ老ける事なく、いろんな事にチャレンジし、人生を楽しみつつ、世の中に恩返しすることも忘れず生きて行ければいいのかなと思います。

ニコボックス

梅村昌孝ニコボックス委員

・2月21日、22日の2日間に渡って行われました、地区最大行事の地区大会を無事終える事ができました。皆様のお陰と深く感謝申し上げます。昨年地区研修・協議会で申し上げました、3つのやりたいことを全て行う事ができました。思い出を心に刻むことができました。本当に有難うございました。

近藤 雄亮さん

・3月1日は82回目の誕生日です。これからもよろしく申し上げます。

岩本 成郎さん

・一寸いいことがありました。

江口 金満さん

・過日3月1日の当松波動物病院開業40周年パーティーに、本多さん、岩田会長はじめ多くのメンバーの方々にお越し賜りまして、ありがとうございます。

松波 恒彦さん

・私の姪が2年間の宝塚音楽学校の生活を終了し、宝塚歌劇団に無事入団しました。名前も「草薙稀月(くさなぎづき)」と決まりました。応援お願いいたします。

鈴木 淑久さん

・3月16日は誕生日です。いくつになったのか忘れてしまった。

伊藤 豪さん

・溝口さん、卓話ありがとうございます。

高木 元明さん

・本日は北岡寿人さんをお連れしました。皆様よろしく申し上げます。

鶴田 浩さん

・先日、鈴木淑久さんには大変お世話になり、面子も立ち、有難うございました。

平野哲始郎さん

・暖かくなってきました。

内田 久利さん

・3月になりました。何かバタバタ忙しいです!!

湯澤 信雄さん

・今週末からJリーグ、日曜日はナゴヤウィメンズマラソン、月末からはプロ野球。いよいよ2015シーズン開幕です。

山口 哲司さん

出席報告

梅村昌孝出席委員

会員63名 出席46名 (出席計算人数44名)

出席率 82.1% 2月22日は補填により 100%

幹事報告

堀慎治幹事

・本日13:40から第5回CA・第9回理事会を名古屋東急ホテル3階「桜の間」にて行います。

3月誕生日おめでとう

岩本 成郎さん 伊藤 豪さん 大川 嘉成さん
 酒井 俊光さん

世界文化遺産と愛知の祭り

奉仕の理想の中に「久遠の平和」という言葉がありました。実は祭りは平和の証でもあると言えます。例えば、江戸時代最大の祭りは「名古屋東照宮祭」と言われておりました。東照宮という神社は、今の名古屋城天守閣の南側にあり、祭礼日には名古屋の町民は城内に自由に入る事ができ、参加者だけで6600名いたそうです。時折、城主が出てきて一般庶民と交わるなど、まさに祭りが盛大であることは平和を表していると思います。



日本の祭りがイベントとどこが違うのかというと、祭りは全て神社で行う例大祭であるという事です。神社の例大祭でない単なるイベントであり、神事である祭りとは言えません。若い人は祭りにイベント感覚で参加していますが、50～60歳の人達は神事として意識しております。祭りそのものは近世に始まっていても、神社は古くからあるものです。年を重ねると、その中に込められた日本人の精神性のルーツを考えるようになる訳でございます。

日本の重要無形文化財には32の祭りが登録されており、これら曳山祭りを一括して、ユネスコ無形文化財に登録する申請を政府が出しました。その中で、一番有名なのは何といっても祇園祭です。日本の曳山祭りのルーツはここにあると言われております。

愛知県は、知立祭り、半田亀崎祭り、津島祭り、犬山祭り、蟹江須成祭りの5つが登録されており、登録数最多です。愛知県は、約200の山車祭があり、山車は400輛近くあります。その山車の4割程にからくりが搭載されており、まさに愛知は日本一の山車王国です。この地方固有のからくり文化は、愛知県が産業立県であることの源流のひとつとも言われております。

また、山車は、伝統技術の集合体とも言えます。例えば、蒔染・染織品・山車本体を作る木工技術・その山車に取り付けられる金具・山車を装飾する塗り(漆芸)・設置される人形(からくり人形)等、山車はそれぞれの祭りを伝えている地域の人々の、あるいは地域の技術・文化の総合体でもあります。それぞれの地域の文化を具体的に示すものとして、重要であると言えます。

ユネスコへの祭りの登録は、近年、富岡製糸場や和食、和紙など、日本の登録が重なった背景があり、延長となりました。その間に、岐阜県の大垣祭りが国の重要無形文化財に指定されたため、申請数も増えました。

ユネスコと混同されやすい世界遺産は、不動産に限られ、建物やその地域一帯のエリアが対象になります。ところがその土地の文化を表現するのに、民俗学・芸能的なことは不動産だけでは表現しきれません。そのため、10年程前にユネスコ無形文化財が提案されました。日本では、能楽、人形浄瑠璃がそれにあたります。曳山祭りでは、京都の祇園祭、茨城県日立市の風流物がすでに登録済みです。風流物祭りは、山車全体がからくりとなっているユニークな祭りです。その後、埼玉県秩父市の夜祭、岐阜県高山祭り、富山祭りの3つを再度提案いたしました。先に登録した2つの祭りとの類似性が高いため却下されました。そのため、グループで登録しようという運びになりました。ユネスコは、1国1芸で毎年1つしか提案ができないそうです。

ユネスコ登録となると、世間一般はすぐ観光と結びつめますが、その真髄や祭りの意味は観光ではありません。祭りの当事者にとっては観光より神事の意味が強く、神社そのものが、そのエリアのコミュニティーの核である事の象徴でもあります。祭りをやっていくエネルギーが、その地域の結束力にもな

り、こういった繋がりが地域社会にとって大きな意義を持っています。そのような、祭り本来の意味をしっかりと認識していく必要もあり、勉強会も各地で開催しています。

日本の祭りは、民俗芸能の特色ですが、誰もがその祭りにおける特定の役を務めることが出来る可能性を持っています。つまり、今年その役を演じる人と、来年演じる人が、それぞれの地域で祭りを伝えられていくという事が非常に大事とされています。

愛知県におきましても、半年程前に大村知事が愛知県の山車祭のネットバンク作りを提案し、官と民を一体化した組織作りが始まっております。行政が祭りに目を向けるという事は、全国的にも例がありません。祭りは神社の祭礼であり、神社というのは神道であるため、政教分離という憲法に抵触する疑いがあるという考えを持った方がたくさんみえます。そのため、祭りの世界は行政にとって触れてはいけない事で、県がそこに踏み込んできた事は画期的なことでございます。これは簡単なことではないですが、この組織作り積極的に関わっていきたくと思います。知事自ら会長を務める予定となっております。3月には委員会立ち上げ、11月には正式に発足しようというタイムスケジュールもできています。愛知県が祭りの保存を全国にPRしていくことは大変結構なことだと思っております。

私のふるさとにある、犬山祭りも今年で381回目となります。この祭りは昭和22年の戦時中に一度だけ、祭りの担い手である若い人が居なくなってしまったため、中止されました。

犬山祭りは、毎年4月の第一土曜・日曜日に行います。本来祭礼というのは曜日ではなく、固定日で行ってました。曜日になったのは観光のためではなく、祭りの担い手が休日にしか集まりにくい背景があります。中には頑なに本来の日取りで行うべきだという人もいますが、私は日にちに意味があるとは思っておりません。祭りの日には旧暦であり、新暦に合わせても、祭り本来の日にちというものは実は無いのです。

例えば秩父の夜祭は霜月の3日、新月の日に行うと決められておりました。この神社の御祭神は妙見様という北極星であります。真っ暗闇の中、一番北極星がよく見えるということで決められていました。現在は12月3日にされており、本来の意味は既に崩れています。

犬山祭りは名古屋の東照宮祭りを真似ていますので、本来は家康公の命日に行われておりました。今の時期に落ち着いたのは100年程前ですが、桜の季節が季候も丁度いいという理由で決まりました。

犬山は初代尾張藩主徳川義直の補佐役に、初代犬山城主成瀬正成が就いたこともあり、名古屋と極めて密接な関係があり、色々模倣をしています。

犬山祭りはまさに名古屋の文化そのものです。残念ながら名古屋東照宮祭の山車・からくりは空襲によって焼失してしまいましたが、犬山は空襲を免れ無事でしたので、本来名古屋にあった文化がそのまま犬山に残る形となりました。なので、名古屋市民の皆さんには是非見ていただきたいです。

例会のご案内

■今週の卓話

3月12日(木)

テ - マ : 淡墨桜長寿の秘密

卓話講師 : (有)板尾開発 樹木医 浅野明浩さん

■次週の卓話

3月19日(木)

テ - マ : 創立35周年・我が名古屋瑞穂RCの歩み
会員卓話 : 野崎洋二さん

■次々週予定

3月26日(木) 第1690回例会及びI.D.M

場 所 : ヒルトン名古屋4階「桜の間」

時 間 : 18:00~20:00